

免疫

Immunology

ユニット責任者：リウマチ・膠原病・アレルギー内科 教授 川 畑 仁 人

ブロック名		期間	ブロック責任者
第1ブロック	免疫①	12月3日 ~ 12月6日	鈴木 登

1. ユニット概要・学習内容

免疫システムは、外部から侵入する病原微生物や異物、組織損傷、あるいは身体内部から発生する悪性腫瘍などに対抗して生体を防御する重要な役割を果たしている。反面、過剰な応答や、制御不全に陥った場合にはアレルギー、臓器移植における拒絶反応、自己免疫疾患など生体にとって有害な結果をもたらす。本ユニットでは2学年免疫1において免疫システムの成立における構成要素と機能、生体防御時に見られる免疫機構の特徴といった免疫学の基礎概念と、これらに関する検査法について学習する。なお2学年における生体防御ユニット、3学年における免疫2、3では臨床的観点から病因、病態の解明や治療法に関して発展的に学習する。

2. 到達目標

1. 免疫系を構成する要素（構造と発生）を説明できる。
2. 生体反応における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を説明できる。
3. 自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。
4. 抗原認識後の免疫調節機構を説明できる。
5. 免疫学的自己の確立と破綻を説明できる。
6. 免疫学的診断における手法、診断に必要な検査項目を説明できる。

3. 学習上の注意点

シラバス、講義実習プリント、参考図書の該当項目を予習し、あらかじめプリント内の課題に取り組む。疑問点を把握し、講義中は講義の理解と予習時の疑問点の解消に努める。講義後すぐに授業内容について復習し、必要なら質疑応答を行い知識の定着を図ることが、重要である。定期試験においては、認知領域としての知識を問うために論述試験、多肢選択方式の客観試験もあわせて行う。TBL時の授業態度、解答用紙での学習状況も評価の対象となる。

4. 教科書・参考書

教科書(各自購入)：『分子細胞免疫学 原著第9版』（エルゼビア・ジャパン）
(書評) ビジュアルに優れており理解しやすい。基礎と臨床の連携した解説がある。

教科書：『微生物学 基礎から臨床へのアプローチ』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

(書評) 基礎から臨床にかけ医学微生物学全般を網羅した教科書。

教科書：『戸田新細菌学 改訂34版』（南山堂）

(書評) 我が国の医学微生物学の教科書の中で最も権威が有る。

教科書：『標準微生物学 第13版』（医学書院）

(書評) コンパクトに最新の情報を交えて解説した教科書。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	80(%)	期末試験期間中に実施する。
授業態度	-	20(%)	TBL 終了後にレポート用紙を回収し、学習状況を評価する。

※当ユニットでは学年末再試験を実施する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
免疫学・病害動物学	教授	鈴木 登	月曜日 12:00～13:00	医学部本館5階 免疫学教室	(内線) 3547
免疫学・病害動物学	准教授	清水 潤	火曜日 12:00～13:00	医学部本館5階 免疫学教室	(内線) 3547
免疫学・病害動物学	助教	中田 なぎさ	火曜日 13:00～14:30	医学部本館5階 免疫学教室	(内線) 3547
免疫学・病害動物学	助教	村山 正承	月曜日 13:30～15:30	医学部本館5階 免疫学教室	(内線) 3547
免疫学・病害動物学	客員教授	高井 憲治	月曜日 12:00～13:00	医学部本館5階 免疫学教室	(内線) 3547
微生物学	教授	竹村 弘	在室の場合 12:40～13:20 16:50～18:00	医学部本館5階 微生物学教室	3540 3539 (内線)
微生物学	講師	浅井大輔	平日 12:30～ 13:20、17:00～ 18:00	医学部本館5階 微生物学教室	3539 (内線)